

平成13年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果概要

平成13年観光客数（推計）：42,382千人（対前年比 728千人増、1.7%増）
 日帰客数：37,742千人（対前年比 871千人増、2.4%増）
 宿泊客数：4,640千人（対前年比 143千人減、3.0%減）
 平成13年観光消費額（推計）：274,647百万円（対前年比 11,363百万円増、4.3%増）

観光客の動向

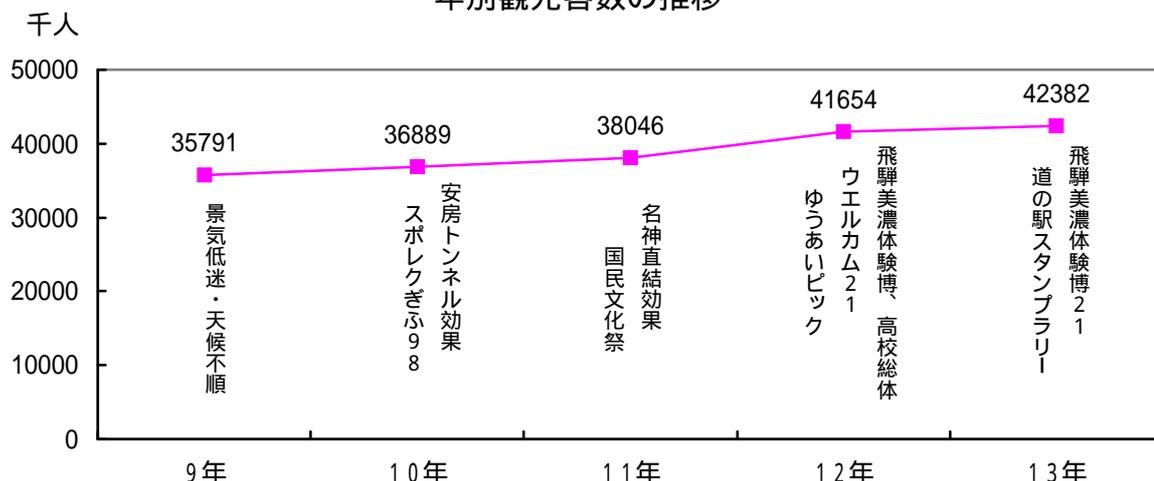
県計

平成13年の観光客数は実人数で42,382千人と推計され、前年より728千人（対前年比1.7%増）増加した。内訳は日帰客数37,742千人（対前年比871千人増、2.4%増）、宿泊客数4,640千人（対前年比143千人減、3.0%減）であった。

全县に渡って展開した「飛騨美濃体験博21」、「道の駅スタンプラリー」の効果などにより、観光客数は増加しており、年々緩やかな伸びを示している。

平成13年の観光消費額は274,647百万円と推計され、前年より11,363百万円（対前年比4.3%増）増加した。特に、1人当たりの観光消費額が高い飛騨圏域及び中濃圏域で、観光客が増加したことにより前年を上回った。

年別観光客数の推移



圏域別

	観光客数（千人）	対前年比（%）	観光消費額（百万円）	対前年比（%）
岐阜圏域	11,676	+4.3	42,210	1.3
西濃圏域	10,921	13.7	22,668	12.7
中濃圏域	8,351	+12.3	66,137	+12.2
東濃圏域	5,046	+1.7	29,236	1.1
飛騨圏域	6,387	+18.3	114,395	+7.9

<観光客の動向>

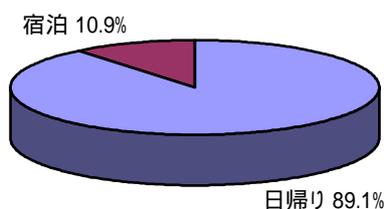
- ・岐阜圏域...「河川環境楽園」、新設の「道の駅織部の里もとす」などの入り込みが好調で増加。
- ・西濃圏域...「決戦関ヶ原大垣博」などにより、平成12年に観光客数が大幅に増加したため、平成13年は減少。
- ・中濃圏域...「高賀神水庵」の知名度向上、温泉施設（武芸川町、高鷲村）が好調で増加。
- ・東濃圏域...恵那峡周辺施設の閉鎖があったが新設の「道の駅らっせいみさと」などの効果で増加。
- ・飛騨圏域...温泉施設の観光客の増加などに見られる平成12年10月の東海北陸自動車道飛騨清見延伸による効果、高山市の「飛騨高山まるごとテーマパーク」の積極的な展開などにより増加。

1 観光客数（実人数）

（1）圏域別・四半期別観光客数

平成13年の観光客数は42,382千人（対前年比728千人増、1.7%増）

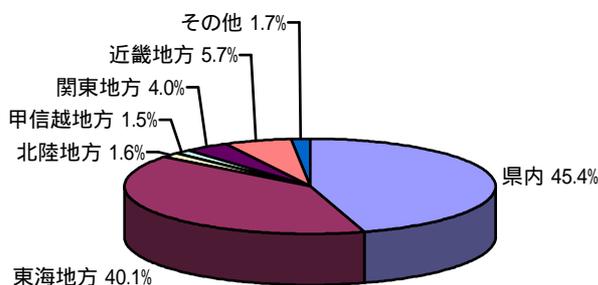
これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は37,742千人（対前年比871千人増、2.4%増）宿泊客は4,640千人（対前年比143千人減、3.0%減）と日帰り客が主体となっている。西濃圏域を除く全ての圏域で日帰り客は増加しており、特に飛騨圏域での伸びが大きい。また、全県的に宿泊客が減少傾向となるなか、中濃圏域は対前年比6.2%増となった。（表1）



（2）圏域別・居住地別観光客数

居住地別にみると、県内客は19,242千人（対前年比132千人増、0.7%増、構成比45.4%）、県外客は23,140千人（対前年比596千人増、2.6%増、構成比54.6%）で、県外客のうち7割以上が東海地方となり、ついで近畿地方、関東地方と続いている。

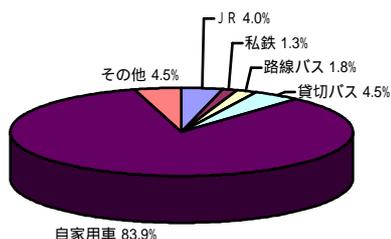
圏域別にみると、中濃圏域が近畿地方から、飛騨圏域が関東地方・近畿地方からの観光客数が多いのが特徴的である。（表2）



（3）圏域別・利用交通機関別観光客数

利用交通機関別にみると、自家用車の割合が8割以上となっている。

圏域別にみると、飛騨圏域ではJRや貸切バスの割合が高くなっている。（表-4）



(4) 圏域別・同行者別観光客数

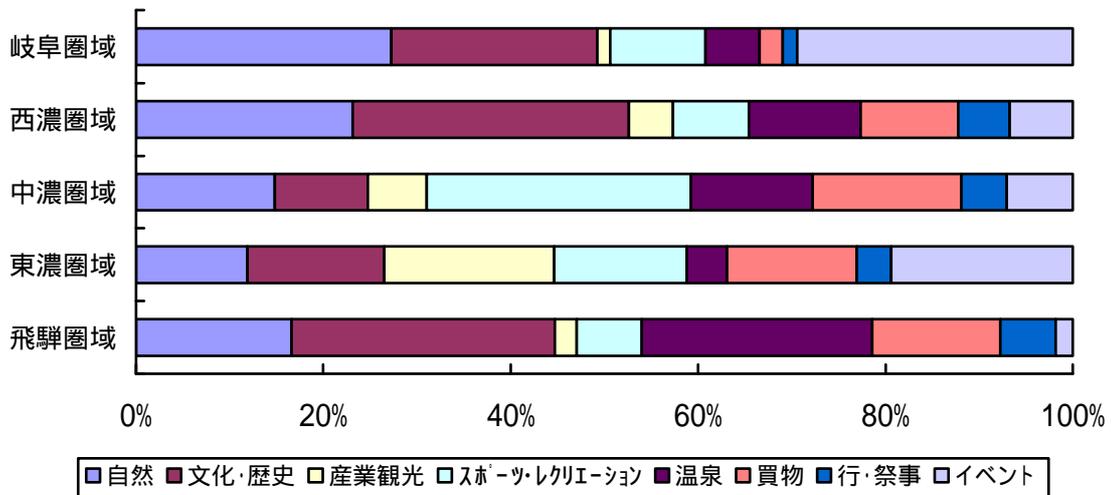
同行者別にみると、約6割が「家族」で、以下「友人・知人」、「自分ひとり」、「団体旅行」、「家族と友人・知人」とつづいている。

圏域別にみると、岐阜、西濃圏域で「自分ひとり」、中濃、飛騨圏域で「友人・知人」、飛騨圏域で「団体旅行」の割合が高くなっているのが特徴的である。(表-5、表-6)

(5) 圏域別・観光地分類別観光客数

観光地別にみると、「文化・歴史」が全体の2割以上を占め、以下「自然」、「イベント」、「スポーツ・レクリエーション」、「温泉」、「買物」、「産業観光」、「行・祭事」とつづいている。

圏域別にみると、岐阜圏域では「イベント」や「自然」、西濃圏域では「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域ではスキー場やゴルフ場をはじめとする「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域では「イベント」や「産業観光」、飛騨圏域では「文化・歴史」や「温泉」を目的とした観光客が多い。(表-7)



2 観光消費額

平成13年の観光消費額は274,647百万円(対前年比11,363百万円増、4.3%増)で、日帰り客は147,446百万円(対前年比14,659百万円増、11.0%増)、宿泊客は127,200百万円(対前年比3,295百万円減、2.5%減)となった。

圏域別にみると、中濃圏域で日帰り・宿泊ともに前年の消費額を上回っている。飛騨圏域は宿泊客では若干減少したが、日帰り客では前年比36.4%増と大きく増加し、依然として飛騨圏域は県総消費額の約40%を占めている。

日帰り・宿泊別にみると西濃圏域では日帰りに消費額が特化しているのに対し、飛騨圏域では宿泊に消費額が特化しているのが特色である。(表-8)

3 経済波及効果

平成13年の生産誘発額は387,874百万円(対前年比15,877百万円増、4.3%増)で、就業誘発効果は43,036人(対前年比1,552人増、3.7%増)となった。

<参考> 可児市の製造品出荷額等 362,190百万円(H11工業統計調査)
多治見市の年間商品販売額 330,353百万円(H11商業統計調査)
瑞浪市の人口 42,298人(H12国勢調査)

4 「道の駅」の観光客数(延べ人数・再掲)

平成13年現在、県内「道の駅」は31カ所あり、うち本調査の対象となった道の駅は25カ所であった。25カ所の「道の駅」の合計観光客数(延べ人数)は6,689千人であった。

「道の駅」の合計観光客数は平成13年9月から開催した「道の駅スタンプラリー」の効果等により全体的に増加しており、「道の駅スタンプラリー」のポイント箇所であった「河川環境楽園」については、観光客数(延べ人数)3,212千人となり、前年に比べ11.6%(対前年比333千人増)増加した。

【参考】調査の概要

1. 調査期間

平成13年1月1日から平成13年12月31日まで

2. 調査の対象

(1) 観光地点に入込んだ観光客

観光地点の定義

・年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

(2) 宿泊施設に宿泊した観光客

宿泊施設の定義

・管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設
ただし、以下の施設は含まないこととする。

(個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、
同伴ホテル・旅館、カプセルホテル)

3. 調査実施機関

県、市町村